

息子のために作家・辻仁成がパリで作り続けるお弁当 辻仁成のシングルファーザー生活孤軍奮闘記録

『50代のロッカーが毎朝せっせとお弁当作ってるって カッコ悪いことかもしれないけれど』

2016年9月9日（金）全国の書店・ネット書店で発売



パリで息子と二人三脚の生活を送る作家の辻仁成さん。二人暮らしを始めてからの二年間、辻さんは毎朝息子のために朝ごはんに「お弁当」を作り続けています。朝食をしっかり食べてもらいたい、和食の素晴らしさを伝えたい、野菜嫌いを直したいなど、お弁当を作り続ける理由は色々ですが、何よりも大切なのは”父子の時間”を作ること。息子さんが朝、「何食べるの?」と辻さんに聞けば、「今日は、鮭の西京焼き」と返事し、「うわ、美味しそう!」と返してくる。こんな何気ない会話が父子の絆を強くしてくれるのです。お弁当作りは日常のルーティーンではなく、好きな人を幸せにさせる愛情表現。本書はこれまで辻さんがSNSで発信し、撮り溜めてきたお弁当の写真の集大成であり、父と息子の絆の記録となっています。

『50代のロッカーが毎朝せっせとお弁当を作ってるってカッコ悪いことかもしれないけれど』

著者：辻仁成 定価：本体1,400円+税 発売日：2016年9月9日（金） A4変型 180ページ ISBN：978-4-07-415072-4

どのお弁当にもその時の記憶が残っている
この本は、こつこつお弁当作りに励んだ私のシングルファーザー生活の孤軍奮闘記録でもある

お弁当の写真には、息子「十くん」との日々のやり取りの様子や、辻さんの「十くん」への想いが綴られています。



週末をバワフルに乗り越えて行け弁当、なり。毎日よく食べてくれますよ。目に見えて背が伸びてる。追い越されるのが楽しみな日々。（本書より）



お弁当が完成するたび毎朝最初の小さな達成感があって、息子が登校したあと空のお弁当箱を見つけては二度目の達成感を覚える。（本書より）



あるとき、「朝弁」の写真をInstagramやツイッターにアップした。すると主婦の方々から反響があった。盛りつけや彩りをほめてもらった。素直にうれしかった。新米シングルファーザーにとって、ありがたいアドバイスを全国からいただいていた。朝弁を作って、SNSにアップするのが私のささやかな日課となった。（本書より）



★著者はパリ在住ですが、インタビュー、取材等、ご相談ください。出来る限り対応させていただきます。

本件に関するお問い合わせは
株式会社主婦の友社 広報・宣伝課 pr@shufutomo.com
TEL:03-5280-7577 FAX:03-5280-7578

辻仁成(つじ・ひとなり)
東京生まれ。1989年『ピアニシモ』ですばる文学賞を受賞し、作家デビュー。97年『海峡の光』で第116回芥川賞、99年『白仏』の仏語翻訳版『Le Boudha blanc』で仏フェミナ賞・99年外国小説賞を日本人としては初めて受賞。文学以外の分野でもミュージシャン、映画監督、演出家など幅広く活動している。2003年より渡仏。現在はフランスを拠点に創作活動を続けている。